

## 初の金融連携シンポ

### 125金融機関から200人参加

経産省関東経済産業局など

## 「地域企業の価値向上」で



熱心に聴講する地域金融機関の参加者  
(3月11日、都内で)

初の「金融連携シンポジウム2010」が3月11日、都内で、地方銀行・第二地方銀行35行、信用金庫90庫の計125の地域金融機関が参加して開かれた。経済産業省関東経済産業局と価値総合研

究所が主催し、金融フロンティア会議(リッキーパーティスソリューショニング)が企画運営)が共催で、地域金融機関の役員、経営支援担当者ら約200人が参加した。

メインテーマは「地域企業の価値向上に向けて」。取引先の中小企業の収益力改善が金融機関の経営基盤強化に直結するだけに、シンポジウムでは緊急保証や中小企業金融円滑化法などによる経営支援活動とともに

冒頭、関東財務局の上田衛門・金融安定監理官が、「地域密着型金融推進に向けた取り組み」についてゲストスピーチ。次いで第一部では、東京都中小企業再生支援協議会の鈴木邦直プロジェクトマネージャーが事業再生で講演した。

第二部は常陽銀行、山梨中央銀行、西武信用金庫、浜松信用金庫の4行庫がパネラー、RBSの澁谷耕一社長がモデレータを務め、地域金融機関の経営支援活動のテーマで1時間30分のパネルディスカッション。経営支援の本部専門部署と営業店の態勢整備や一体化のための工夫、人材育

成の取り組みや課題に關して活発に討論。また、地域密着型金融推進には事業の潜在的成長性、社長の能力などの定性情報が重要だが、情報収集や蓄積方法、取引先企業とのコ

ミュニケーションの取り方などにも言及。さらに、地域経済全体の面的支援のポイント、収益確保と経営支援のバランスなど関心の高い問題の質疑を、参加者は熱心に聴講した。